

多学年グループ学習が 社会人基礎力に与える効果

○藤原 正之¹⁾ 井上 美幸²⁾ 松田 徹³⁾ 樋口 典男¹⁾
秋山 大輔¹⁾ 堀川 光司¹⁾ 岡村 安優¹⁾ 新堀 健士¹⁾

1) 千葉医療福祉専門学校 理学療法学科

2) 千葉医療福祉専門学校

3) 亀田メディカルセンター リハビリテーション事業管理部

目的 |

学内教育は、臨床実習を見据えた学生の情意領域を育成する責任がある。

(中川 他, 2016)

理学療法士には、臨床基礎能力・理学療法実践能力・理学療法マネジメント能力の3つの能力が必要である。

(黒澤, 2017)

従来行われている知識・技能の伝達・習得のみではなく、専門知識・専門技能を能動的に学び、活かすことの出来る能力の向上を目的とした多学年グループ学習を新たに導入した。

その効果を社会人基礎力に与える側面から検証することを目的とした。

方法 | 対 象

対象は、本学に在籍する理学療法学科の学生とした。

1年生31名（男性19名，女性12名，平均年齢 19.3 ± 0.5 歳）

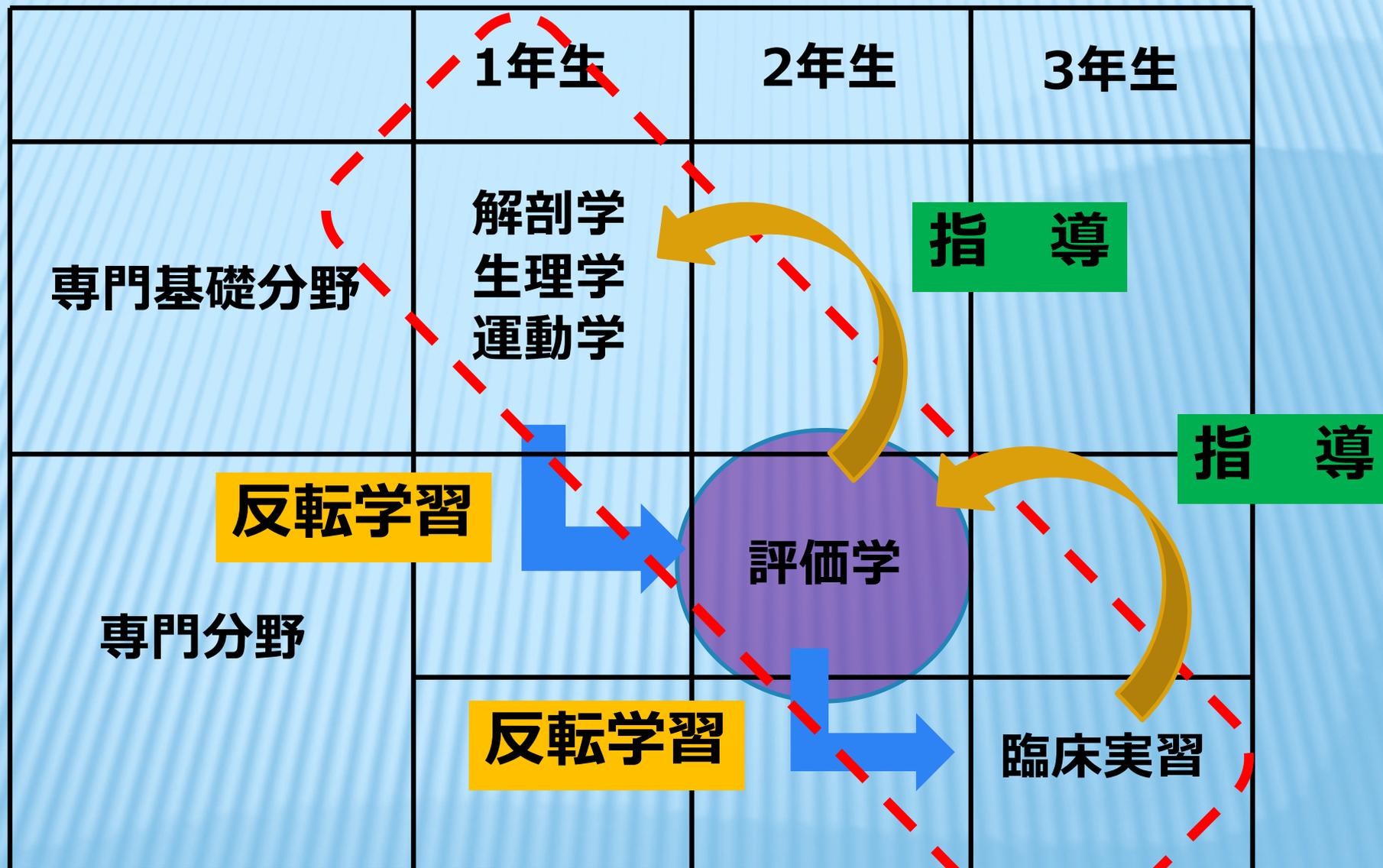
2年生25名（男性14名，女性11名，平均年齢 20.8 ± 2.3 歳）

3年生27名（男性24名，女性 3名，平均年齢 21.3 ± 0.6 歳）

合計 83名とした。

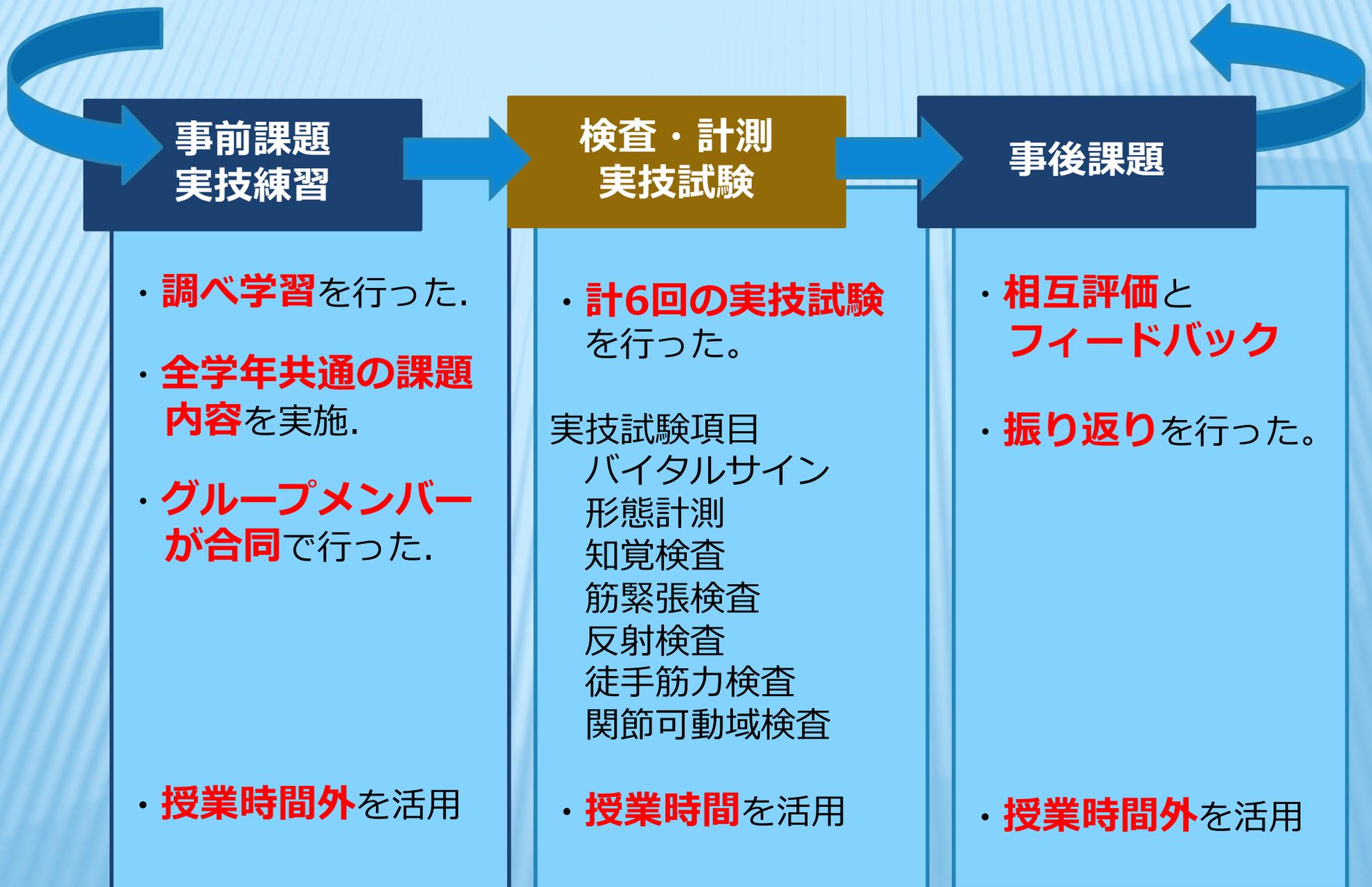
対象者には、本研究の趣旨と内容および個人情報の取り扱いなどを説明し、同意を得た。

方法 | 多学年グループ学習を行う前提として



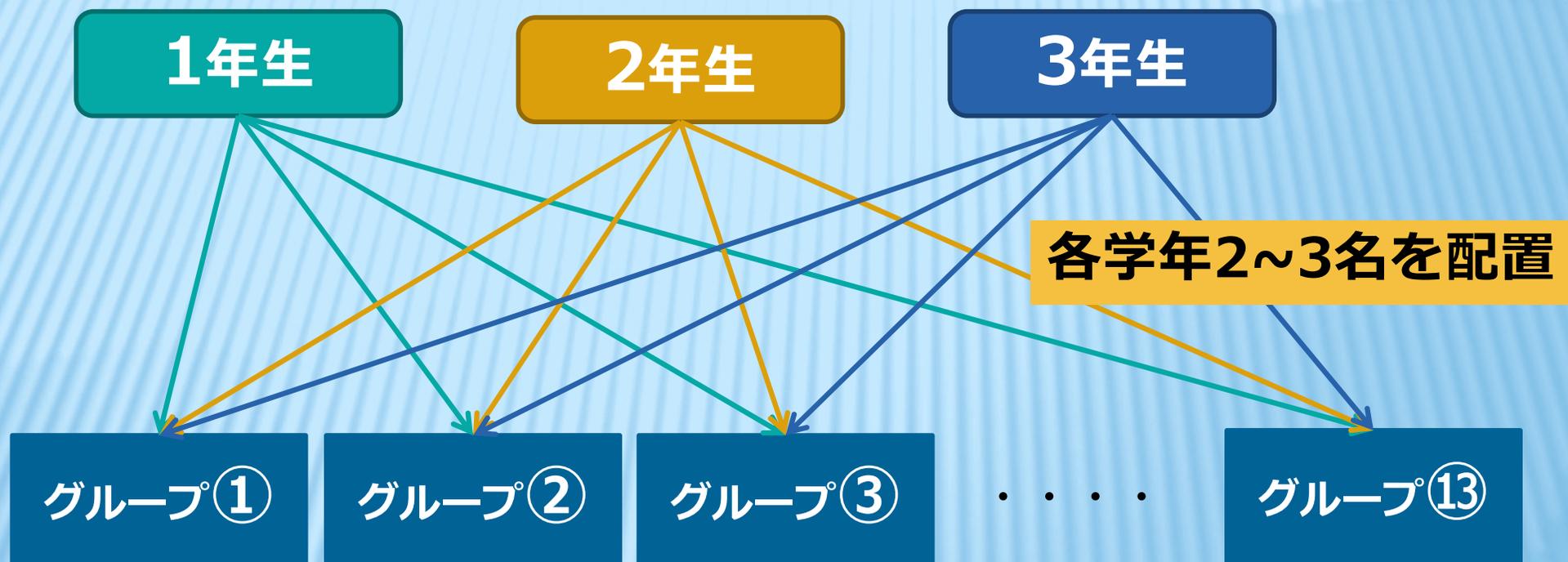
検査・計測の知識・技術習得を中心に構成

方法 | 多学年グループ学習の流れ



方法 | グループ作成

多学年によるグルーピング



グループ間では、学力・技能的に均一化した
グループとした。

方法 | 各学年のグループ内での役割

実技試験

被験者 (受け手としての学習) 検査者 (実施者としての学習) 評価者 (指導者としての学習)



指導を受ける (受け手としての学習) 受験者・指導者 調整者 (主体的・能動的な学習) 管理者 (状況把握と対応による学習)

事前課題・実技練習

- ・ 知識・技術以外の能力向上を目的に役割を与えた。
- ・ 多学年の交流による双方向での学習を目的とした。

方法 | 事前課題・実技練習について

事前課題・実技練習

授業 | 実技試験

事後課題

事前課題項目

- ・バイタルサイン
- ・形態計測
- ・知覚検査
- ・筋緊張検査
- ・反射検査
- ・徒手筋力検査
- ・関節可動域検査

形態計測 事前学習課題

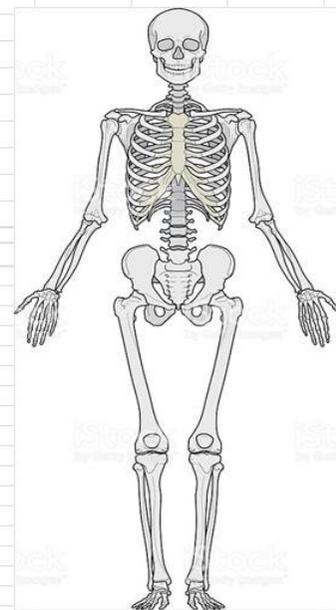
提出日：平成29年 月 日

理学療法学科

<学習課題>

- ①形態計測の意義と目的について
- ②形態測定上の注意事項について
- ③四肢長の測定により知ること
(各項目について簡単な説
単語(医学用語)につい
- ④周径の測定により知ることが
(各項目について簡単な説
単語(医学用語)につい
- ⑤計測位置や計測方法について
- ⑥⑤が実際に出来るように何度

⑤図に計測位置(〇〇骨〇〇 ~ 〇〇骨〇〇)を記入し、名称も記入しましょう。
(肢長・周径ともに記入しましょう。周径の場合は、計測位置をどのように設定するかも
加えられるとGoodです。)



全学年で共通課題を実施

方法 | 実技試験・事後課題について

試験官
教員

検査者
2年生

評価者
3年生



被験者
1年生

<技能>		
測定部位と意義を簡潔に説明できる。	2点 測定部位と意義を簡潔に説明できる。 1点 測定部位と意義を説明するが不十分。 0点 測定部位と意義を説明しない。	□2 □1 □0
患者を各測定肢位に誘導できる。	2点 測定肢位にできる。 1点 測定肢位にしたが、不十分。 0点 測定肢位が明らかに誤っている。	□2 □1 □0
測定部位を十分に露出させることができる。露出出来ない場合は、衣服の影響を最小限にすることができる。	2点 測定部位を露出させることができる。 1点 測定部位の露出が不十分である。 1点 衣服にしわがよりメジャーを邪魔する。 0点 測定部位を露出させない。	□2 □1 □0
非障害側から測定することができる。	2点 非障害側から測定できる。 1点 障害側のみ測定。障害側から測定する。 0点 非障害側のみ測定する。	□2 □1 □0
測定部位に関連する骨指標を触知することができる。	2点 正確に触知できている。 1点 概ね正確に触知できている。 0点 全くできない。	□2 □1 □0

評価者は、実技試験終了後に検査者に対しフィードバックを行った。

事前課題・実技練習

授業 | 実技試験

事後課題

- ・ 相互評価とフィードバックを行った。
- ・ 事前課題から実技試験終了までの過程を振り返りを行った。

方法 | 社会人基礎力

社会人基礎力の3つの能力・12の能力要素

能力分類	能力要素	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

引用：「社会人基礎力」育成のススメについて 経済産業政策局 産業人材参事官室

方法 | 統計解析

グループ学習の実施前後で、社会人基礎力について 質問紙形式にてデータ収集を行った。

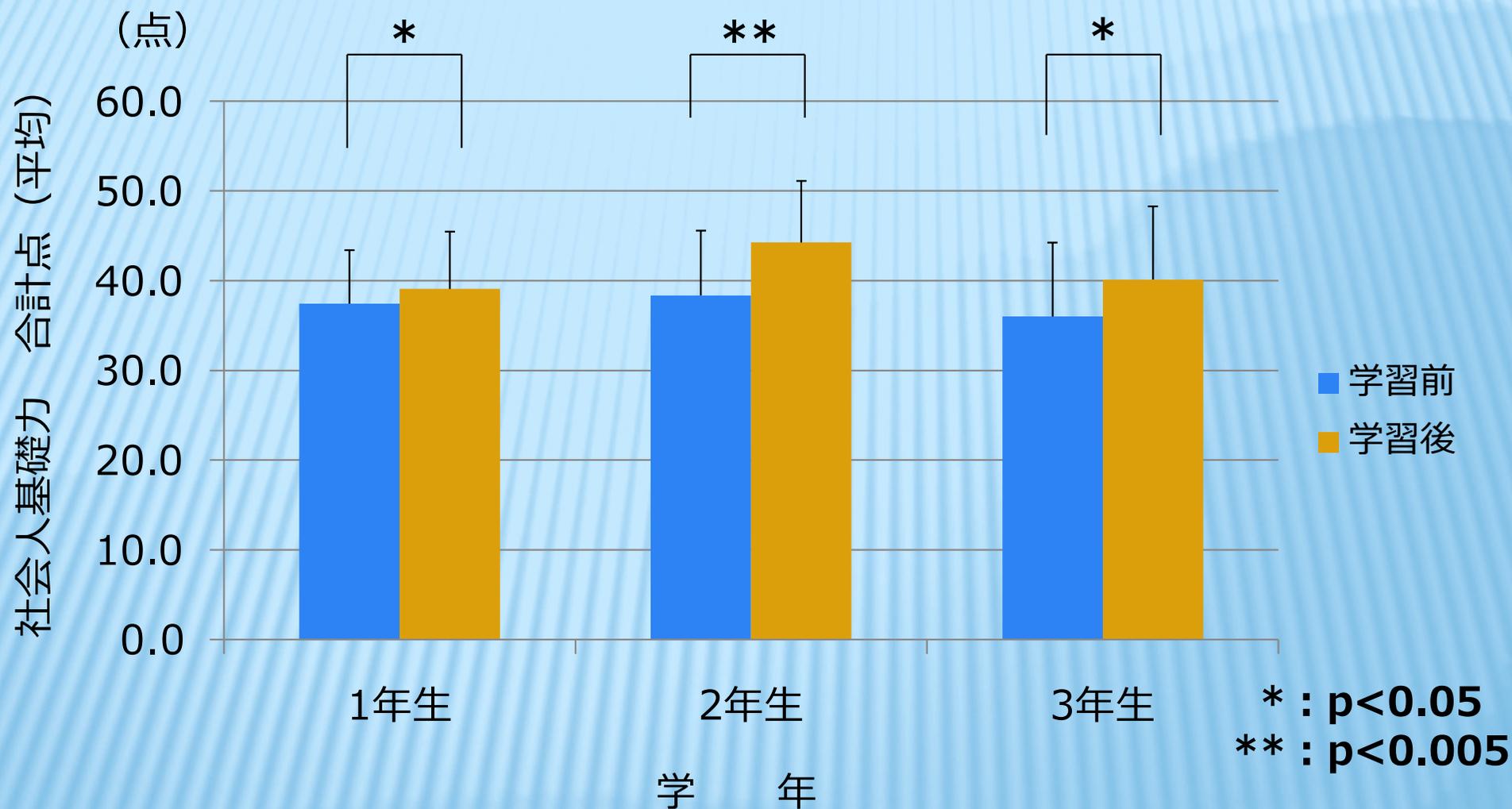
社会人基礎力は、12の能力要素を各1～5点の5段階評価とし、合計点を12～60点の範囲で評価した。

統計解析は、対象のうちグループ学習実施前後の回答に 欠損等が確認された者を除外した1年生30名、2年生20名、3年生25名の合計75名の値を用いた。

数値は、wilcoxonの符号付順位和検定にて検討した。統計解析には、IBM SPSS 24.0 Statisticsを使用し、有意水準は5%とした。

結果 |

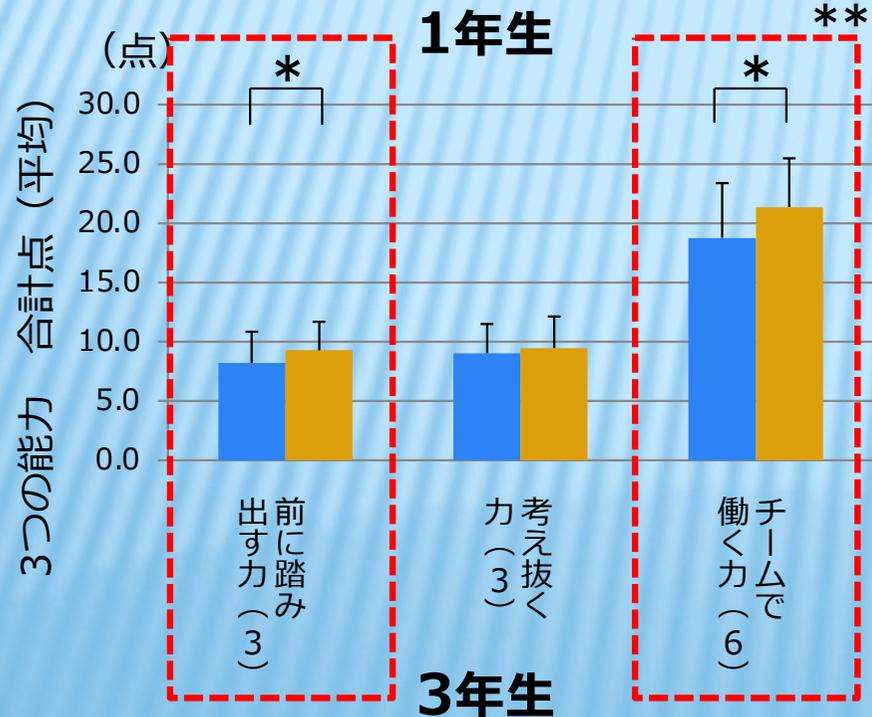
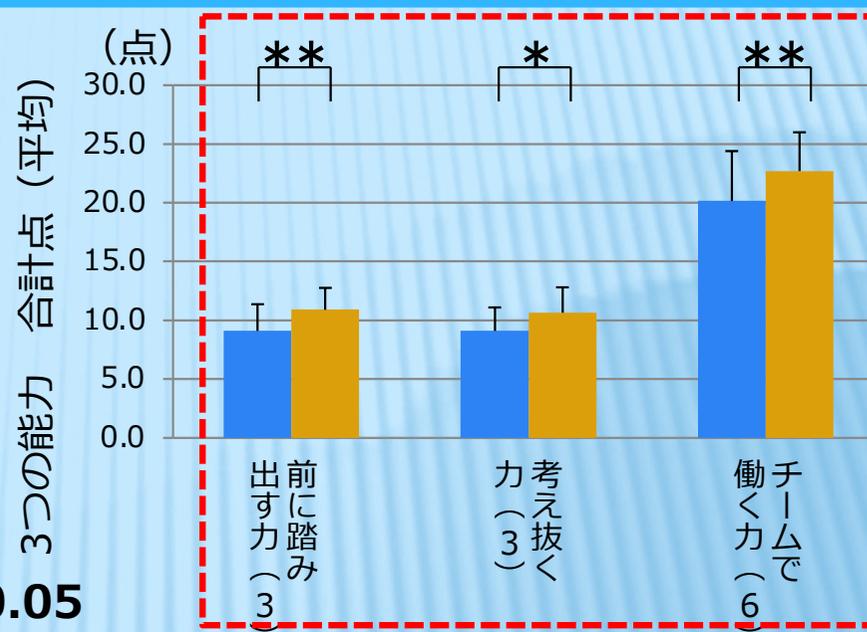
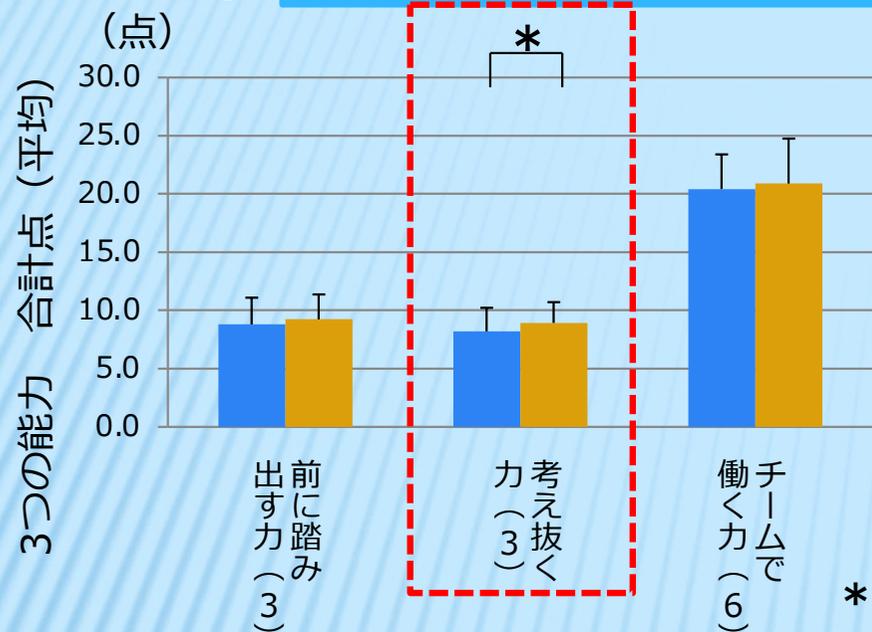
各学年における社会人基礎力 合計点の前後比較



全ての学年で社会人基礎力の有意な向上を認めた

結果

各学年における社会人基礎力 3つの能力の前後比較



1年生：「考え抜く力」

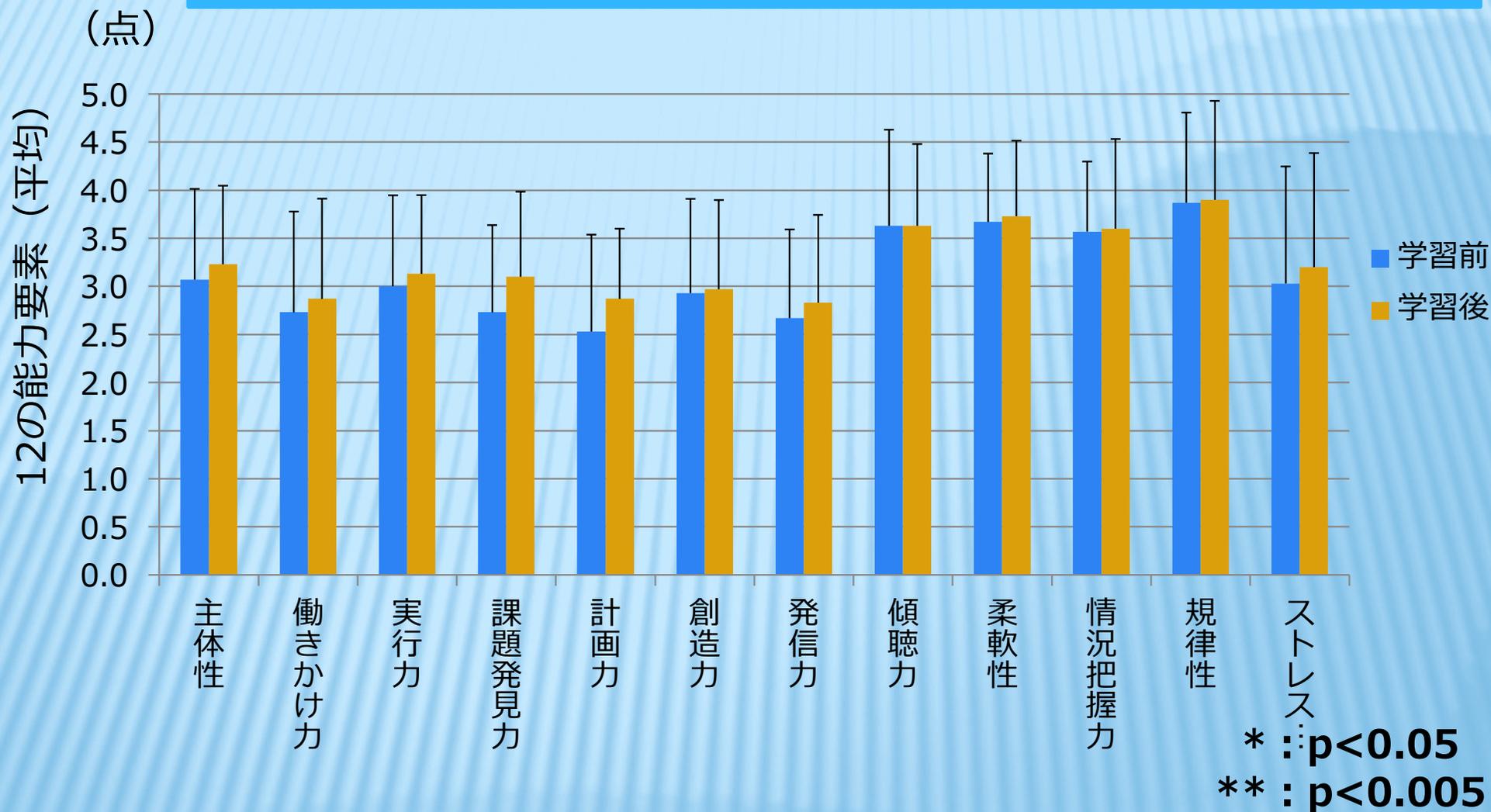
2年生：「前に踏み出す力」
「考え抜く力」
「チームで働く力」

3年生：「前に踏み出す力」
「チームで働く力」

結果

各学年における社会人基礎力

12の能力要素の前後比較 | 1年生

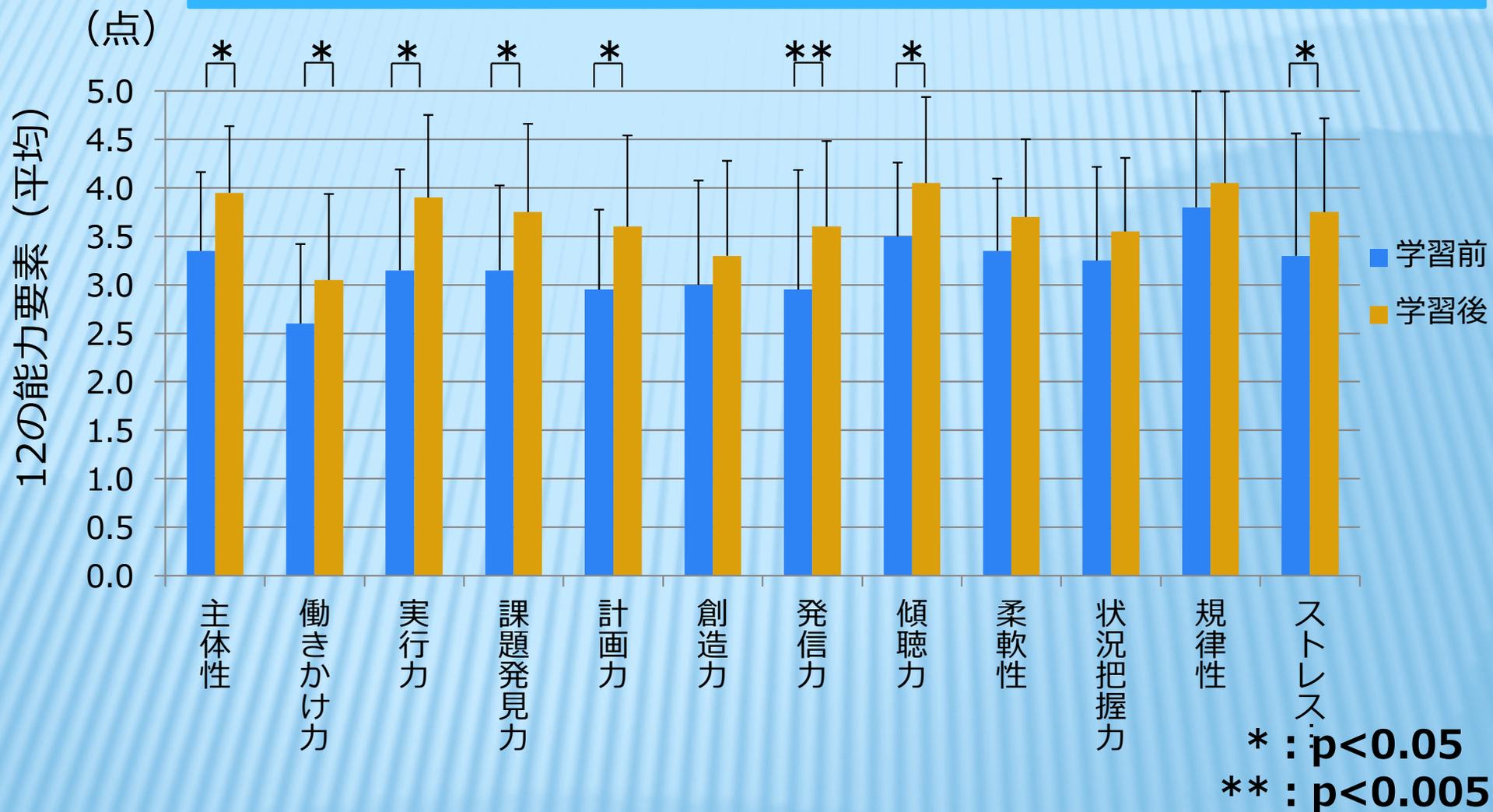


全ての要素で有意な向上は認められなかった

結果

各学年における社会人基礎力

12の能力要素の前後比較 | 2年生

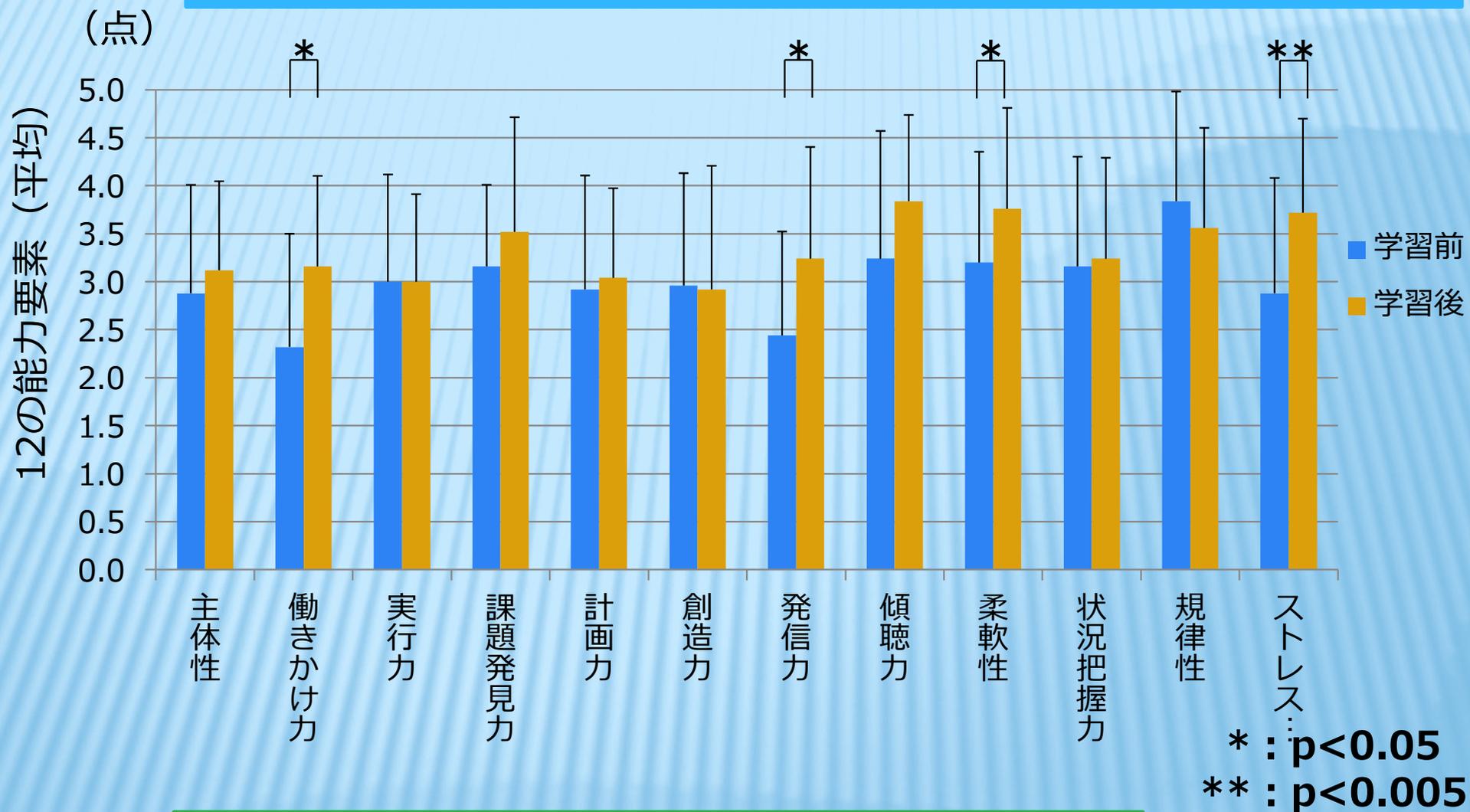


8要素で有意な向上を認めた

結果

各学年における社会人基礎力

12の能力要素の前後比較 | 3年生



4要素で有意な向上を認めた

結果 | まとめ

3つの能力

1年生			2年生			3年生		
アクション	シンキング	チームワーク	アクション	シンキング	チームワーク	アクション	シンキング	チームワーク
	↑		↑	↑	↑	↑		↑

12の能力要素

能力要素	アクション			シンキング			チームワーク						合計点	
	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	コントロール力		ストレス
1年生														↑
2年生	↑	↑	↑	↑	↑		↑	↑				↑		↑
3年生		↑					↑		↑			↑		↑

考察 |

1年生

- 上級学年から指導を受ける立場や被験者としての役割を果たす中で社会人基礎力全般における向上効果が認められたと考えられた。

2年生

- 多学年グループ学習は評価学を中心に構成しており学習進行の中心は2年生であった。これにより2年生のみに主体性・実行力での有意な向上が認められたと考えられた。
- 計画力・課題発見力について2年生のみで有意な向上が認められたことは、グループ内での事前学習や事前練習等のスケジュール調整を期間中に繰り返したことが影響したと考えられた。

- 傾聴力においても2年生のみで有意な向上が認められた。
これは、調べ学習が主体となった1年生に比べ技術習得を目指した2年生が指導を受けるという意識が高かったためと考えられた。

3年生

- 働きかけ力・発信力で有意な向上が認められた。 これは指導者として「伝える」「教える」「導く」という行動が影響したものと考えられた。
- 柔軟性は3年生のみで有意な向上が認められた。 これは管理者・指導者として他学年の立場や意見を柔軟に理解しようとしたことが影響したと考えられた。そのため、ストレスコントロール力でも有意な向上が認められたと考えられた。

多学年グループ学習

- 多学年グループ学習は、社会人基礎力の向上に影響を与える取り組みであり、その影響は、各学年に求められる役割により異なる可能性が考えられた。
- リハビリテーション教育で求められる能力の段階的な向上に寄与する可能性も示唆された。